

広報 かわぐち

発行 新潟県川口町 川口町役場 総務課
編集 (〒949-75 ☎0258(代)89-3111)

七曲り埋立地から お願い：

最近、七曲り埋立地に無断で、廃棄物を捨ていく方が多く見受けられます。無断で捨てた場合、「不法投棄」として持ち帰っていただくことになりませんので、必ず事前に連絡をとってから埋立地に搬入するようにお願いします。
〔連絡先＝役場町民課〕
また、家庭用の不燃物や危

険物は、定められた日に受け取っております。
なお、冬期間（十二月から三月）における、不燃物（家庭大型危険物及び事業廃）の受付は、次のとおりです。

- 十二月から三月 毎週第二・第四木曜日 午後二時～四時（なお、テレビ・冷蔵庫等は十二月から雪消えまで取り扱いません）
- 受付場所 七曲り埋立地（川口町牛ケ島地内）

冬期間は 水道の検針を休みます

―水道管の冬囲い・凍結防止を十分に―

冬期間は、降積雪のため、水道メーターの検針ができませんので、検針を休ませていただきます。
なお、この間の水道料金は推定量で算定し、雪消え後の検針で、精算させていただきます。
なお、冬期間は、水道管が

雪の重みや凍結などで破損し、漏水事故が多発する時期です。水道管の冬囲いや凍結防止を十分に行ってください。



県では、県政に対する理解を深めていただくために、全戸に「県民だより」を配布しています。

県広報紙 「県民だより」の お知らせ

配布方法は、新聞（新潟日報・毎日・読売・産経・朝日・日本経済各新聞）の折り込みによって行われていますが、新聞を購読されていない世帯は役場窓口でお受け取りください。
なお、個別郵送を希望される場合は、役場総務課にご連絡ください（郵送無料）
● 発行月

一年末年始のごみ収集

12月30日（土）	までは平常どおり収集します。
12月31日（日）	休 み
1月1日（月）	休 み
1月2日（火）	休 み
1月3日（水）	休 み
1月4日（木）	以降は平常どおり収集します。

―冬期間の危険物収集―

冬期間の危険物収集を次のとおり行います。

- 毎月第二・第四火曜日
- 収集地域…和南津・野田・中山・東部・西川口（小和北除く）上川・田麦山
これ以外の地域（竹田・牛ヶ首・小和北・木沢・峠）は行っていません。

平成元年度↓十一月、一月
平成二年度以降（予定）↓
四月、七月、十月、一月

人口	6,466人	平成元年12月1日現在
男	3,153人	
女	3,313人	
世帯数	1,513戸	



元気いっぱいにはちさばきもあざやかに
「川口あおり太鼓」を披露

11月12日(日)、ふるさと友好都市
狛江市お祭り広場で。

(関連記事6ページに掲載)

狛江市民まつり
ふれあいのフェスティバル

町長選挙結果	2	狛江市友好都市交流	6～7
道路除雪体制万全に	3	生涯学習フェスティバル	8～13
町政功労者を表彰	4	中学校で「立志式」	14
金子県知事が来町	5	県内の交通死亡事故激増	15

おもな内容

川口町長に

青柳弘氏が四選



任期満了に伴う川口町長選挙は十二月三日(日)、町内十一カ所で投票が行われ、即日開票の結果、現職の青柳弘氏(六十八歳)が当選されました。

開票結果

当選 二、四五一票 青柳弘
一、九九三票 覚張定一

今回の町長選挙は、四選を目前とする現職の青柳弘氏と新人で前町議会議員の覚張定一氏の二人が立候補。これにより二十二年ぶりに町長選の投票が行われ、激戦の末、青柳弘氏が連続当選し四選を果しました。

また、開票は午後七時半から始まり、開票所となった役場二階会議室に参観人も多く詰めかけ、また一階ロビーに張り出された開票速報版にも大勢の人だかりがで、選挙に高い関心を示していた。また、開票は係によって手際よく行われ、八時半過ぎには大勢が判明し、八時五十六分頃に最終結果が選管から発表されました。



▲開票風景

の温かい町づくり」を町政の指針として、社会資本の整備を積極的に進めるとともに、各分野の定住環境整備に取り組み大きな成果をあげています。特に、町は現在、新潟県の家族旅行村やマイ・ライフリゾート新潟の重点整備地区に指定され、また、国の生涯学習のむらの指定を受け観光整備等の整備を図り、活力と魅力のある町づくりと、下水道や克雪タウン計画による社会資本や居住環境の整備などを進め、町の活性化に取り組んでいます。

区分	有権者数	投票者数	投票率
男	2,269人	2,140人	94.31%
女	2,459人	2,351人	95.61%
計	4,728人	4,491人	94.99%

投票状況

有効投票数	4,444票
無効投票数	47票
投票総数	4,491票



▲今年度新しく購入した「ロータリー除雪車」

三年連続の暖冬で、すこしや寒い冬が続いていますが、今冬は!? 十一月二十日新潟地方気象台が発表した北陸地方三カ月(十一月～二月)予報によると、この期間の降雪量は平年並みの見込みと予報されています。そして、今回の予報のポイントの中で、一月末には季節風が高まり、一時大雪の恐れがあるとし、おおよそのイメージは別図のとおりです。町では、今年度の除雪計画をまとめ、十一月二十四日、除雪隊を結成し出動体制万全に、冬本番に備えています。除雪計画によると、昨年と

道路除雪体制 万全に

ほぼ同様に、国・県が行う除雪路線と平行して、同路線に通じる通勤、通学路や市街地、そして各地区における極め細かな計画により、冬期間の交通確保にあたります。特に、今年度から田麦山と上川地区の除雪を委託して行います。また、除雪を効率、円滑に進めるため、常時除雪路線と条件付除雪路線等に分けて行い、その除雪目標は次のとおりです。

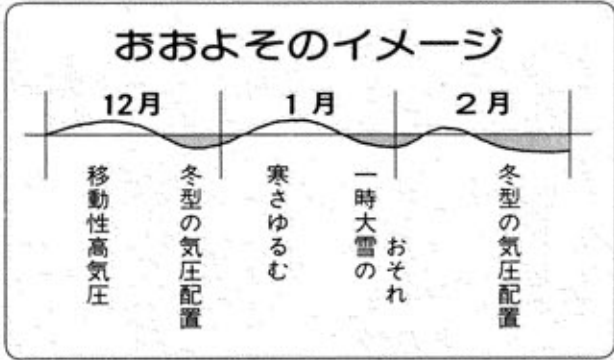


除雪に 皆んなで協力を

除雪隊は、臨時オペレーター八人と町職員で編成され、午前三時頃から出勤し、通勤、通学に間にあうよう午前七時半頃までに除雪を行います。このように除雪隊は朝早くから、私達の生活の足を守るために頑張っています。そこで、除雪を円滑に進めるため

- 皆さんから次のことについてご協力をお願いします。
- 除雪路線内に駐車しないこと。
- 除雪路線両側の民地へ投雪及び雪の押し出しについては承願いたします。
- 屋根の雪を道路内に落とし、た場合は、必ず後始末をして下さい。(必ず一車線を確保して下さい)
- 危険箇所、越冬池、道路から見えにくい下屋のある所等には、標識(赤旗等)を設置して下さい。
- 除雪作業中は除雪車に近寄らないこと。

- 除雪路線内の支障物件を除くして下さい。
 - 又、今年も次の町道が駐車禁止となります。
 - ① 寺裏線(東部)
 - ② 川口線(東部)
 - ③ 前島北ノ浦線(東部)
 - ④ 前島線(東部)
 - ⑤ あけぼの団地線(東部)
 - ⑥ 東浦大平線(東部)
 - ⑦ 西川口線(西川口)
 - ⑧ 岩出原荒屋線(西川口)
 - ⑨ 西川口内ヶ巻線(西川口)
 - ⑩ 新敷原新田線(西川口)など
- 期間は、十一月一日から来年の三月三十一日まで。
- なお、年間通して駐車禁止路線についてもご協力ください。



今冬の除雪目標

- ◆ 常時除雪路線
 - 一車線の幅員を確保し、常時交通確保を図ります。(ただし、異常降雪時には一時交通不能となる路線も含む)
- ◆ 期間除雪路線
 - 地元の要望等により、新規に余力の範囲で一定期間又は一定の積雪まで除雪する路線。
- ◆ 運搬除雪路線
 - 市街地の道路状況において常時除雪が不可能となつたため、積雪状況により運搬除雪を行う路線。
- ◆ 春先除雪路線
 - 降雪期を過ぎた春先に除雪する路線。
- ◆ 歩道除雪
 - 建設省から委託された、国道十七号の歩道を通勤、通学時(午前七時)までに除雪を行い安全確保を図ります。
 - ※ 異常降雪とは、短時間の間に連続50cm/24時間程度を異常といい、これ以外を平常降雪といえます。

除雪のお問い合わせ先

国道…建設省小出維持出張所 (02579)2-0839

県道…川口除雪ステーション 89-2052
小千谷土木事務所 82-6361

町道…役場土木課 89-3111 (内線23)
除雪サブセンター 89-3711

菊花薫る文化の日

町政功労者を表彰

今年はトキワ精工(株)など企業三社と個人七人

文化の日(十一月三日)、町褒賞条例に基づく表彰式が役場議場で行われました。

これは、町の政治、経済、文化、福祉など、各分野で町政の発展に貢献された方や衆人の模範となる方、町行政に積極的に協力された方に対し



▲町政功労者「表彰式」

て、その功績をたたえ、毎年文化の日には表彰を行っているものです。

今年、地方自治、産業振興、自治行政の分野で貢献された企業三社と個人七人に、表彰状と記念品が贈られました。

町財政と雇用拡大に寄与

表彰された企業三社は、(株)酒巻製作所の社名を変更した「トキワ精工(株)」と「東芝管球器材(株)」、「抗体化成工業(株)」で、各社とも町の誘致企業として進出しており、これまでに、高額納税事業所として、町財政の健全化と雇用拡大に大きく寄与されるなど、産業経済の振興、町政の伸展に貢献されたものです。以下は会社の内容です。

トキワ精工株式会社

●工作用機械器具製造業
ドリルの装着に使う「ドリルチャック」や産業ロボットに不可欠な割出機「スパーパイダー」、NG機械に使われる「NCツーリング」などを製造。

本社、小千谷市、昭和五十二年川口工場を設立。資本金六千万円。

東芝管球器材株式会社

●電気機械器具製造業
家庭用の「一般電球」や「自動車用電球」、輸出向けの「螢光灯」など管球用各種口金を製造。

本社、東京都、昭和五十二年越後川口工場を設立。資本金一億五千万円。

抗体化成工業株式会社

●医薬品の製造販売と研究開発
医薬品の基礎となる「化合物の合成」や「天然物の化合物」の抽出、精製、「創傷保護剤」の生産。

昭和五十三年創業。資本金六千万円。

個人功労者

●個人では次の方々です。
町議会の要職などを歴任し地方自治の進展に貢献された

小宮山久治さん(西川口)

現在町議三期目。正副議長及び産業建設委員長、町消防団長、商工会長、大字西川口総代などの要職を歴任。

鈴木 隆司さん(相川一)

現在町議三期目。正副議長及び小千谷地域広域事務組合議会正副議長、農協理事、大字相川総代などの要職を歴任。

森山子之吉さん(田麦山)

現在町議三期目。副議長及び産業建設委員長、小千谷地

域広域事務組合議会議員、町農業委員、農協理事などの要職を歴任。

西倉地区の農業基盤整備に尽力され、産業の振興に貢献された

山崎 義男さん(西倉)

西倉地区農村基盤総合整備事業推進委員長として同事業を推進。このほか町議や農業委員などの要職を歴任。結婚相談員としても活躍されている。

長年にわたって自治行政の充実発展に貢献された

星野 正さん(町職員)

昭和三十四年に町役場職員として奉職。議会事務局長、町民課長を歴任。現在下水道課長。

星野 孝さん(町職員)

昭和三十三年に町役場職員として奉職。現在町民課係長。



金子県知事が来町

滞在型家族旅行村を視察

十一月十七日、金子県知事が初めて当町を訪れ、滞在型家族旅行村を現地視察しました。これは、この日小出町で午後から開かれた「知事とのふれあいトーク」の一つとして、当町を訪れたもので、現地には町民の皆さん大勢が迎え、青



▲青柳町長から説明を受ける金子県知事(右)

柳町長から現在取り組んでいる滞在型家族旅行村についての説明がありました。また、この春オープンしたファミリーゴルフ場で、知事がティショットを行い、見事なプレイを見せ、回りから大きな拍手を受けていました。

知事とのふれあいトークで

家族旅行村は、昭和六十年に県の指定を受けて、滞在型リゾート地を目指す大型プロジェクトとして、国・県の補助事業等を導入し建設が進められているもので、これまでにオートキャンプ場とファミリーゴルフ場が完成し、現在ピクニック緑地の建設が行われています。



▲ファミリーゴルフ場でティショットを試みる知事。

余暇時代にむけて豊かさを創造

仕事以外のライフ・ワークを

余暇を若い時から重視してきた人は、待つてましたとばかり定年後、趣味や好きなことに打ち込むことができます。なかには、ライフ・ワーク(一生の仕事)にまで高めようと頑張る人も出てきます。しかし、そう思われた人ばかりではありません。生活環境の変化に戸惑い、何をしながら生きていこうかという不安を感じる人もいます。高齢期は、それまでのいろいろな人生のツケが回ってくるものですが、余暇もその例外ではありません。若い時代から、コツコツと余暇の習熟に励んできた人は、高齢期になっても、余暇を生活の中に取り入れて、毎日をいきいきと過ごせます。

三つは、自宅の近くで趣味などのサークルを見つけて、入会することです。「いまさら」などというこだわりは捨て、勇気を出して新しい世界の扉を開きましょう。

初心に戻って新しい世界へ

若い時から、家庭や地域を顧みず、仕事一筋に生きてきた「仕事人間」の人たちほど





「ふれあい広場」に集合 狛江第一小学校

狛江市民まつりに

「川口あおり太鼓」と 「婦人みこし」が初参加

会場にはハッピー姿でのりこみ
ました。
会場のふれあい広場はあふ
れんばかりの人波、ステージ
に立った子供たちは、いつも
のように元気のよいばちさば
きを披露して、親善交流使節
の役目を立派にはたしてくれ
ました。

狛江の空に とどろく 川口あおり太鼓

川口あおり太鼓が狛江市民
まつりに友好出演。子供たち
が打ち鳴らす太鼓の響きが狛
江市の空にとどろきわたり、
集った市民から大きな拍手を
うけました。
狛江市民まつりに参加した
のは、あおり太鼓クラブ員の
うち五、六年生の男女十九人、
狛江市内に一泊しておまつり



▲狛江の空にとどろくあおり太鼓



▲行ってきますと出発のあいさつ (あおり太鼓)

華やかに そして威勢よく 婦人みこし

狛江市民まつりに、川口あ
おり太鼓とともに町の婦人み
こしが参加しました。
ワッショイ、ワッショイと
威勢よく、そして華やかに市
中を練り歩き、勇壮な狛江み
こしと共演。市民まつりに花
をそえ交流を深めました。
これは、狛江市から毎年
当町のまつりに、同市のみこ
しが馳せ参じておりこの返礼



▲「記念撮影」狛江第二小、出発前に……。



▲「みこし」が勢ぞろい。



▲川口物産店の前は人だかり。



▲「かわぐち若鮎」チーム。

二チーム 十六人が参加

狛江市との交流事業として
定着してきた「狛江市一周
わんぱく駅伝大会」に、今年
も当町から二チームが参加、
親善交流を深めました。

この大会に参加したのは、
これで三回目。今年も初参加
の新人でチーム編成、川口小
学校チームの「かわぐち若鮎」
と泉水、田麦山、木沢小学校
の混成チームの「かわぐち青
葉」で、教育委員会が引率し
ました。

親善交流

狛江わんぱく駅伝

今年で三回目

立派に親善大使の役目を果す

都会の子どもたちに 交って堂々と走る

流という新しい大きな感激を
体験し、親善大使の役目を
はたしました。

コースは、狛江市のほぼ全
域を一周する約十三キロメー
トルを八区に分けて、全区間
が平坦で起伏がなく、市街地
の中の狭い小路や多摩川の堤
防の上などで、川口と感の境
違ったコースですが、ちびっ
こ選手たちは何んのためらい
もなく、都会の選手にまじっ
て堂々とした走りっぷりをみ
せてくれました。
また、オープン参加ながら
昨年に続き好成績を収め、若
鮎チームが総合で二位、若葉
チームが七位に入賞しました。
参加した二チームの選手は、
都会の子供とスポーツでの交



▲「かわぐち青葉」チーム。

わんぱく駅伝出場選手

(発走順)

区間	学年	かわぐち若鮎チーム		かわぐち若葉チーム	
1区	3年	覚張伸和	川口小	森山達矢	田麦山小
2区	"	山崎竜一	"	宮正樹	泉水小
3区	4年	関雅志	"	綱雄大	"
4区	"	中林正臣	"	小林清隆	木沢小
5区	5年	古田島直人	"	笹崎和樹	田麦山小
6区	"	覚張祐樹	"	星野健	泉水小
7区	6年	山田義明	"	山崎洋	"
8区	"	覚張毅	"	森山数雄	田麦山小

監督 内山敦夫 選手会長 森山数雄

オープン参加で 総合で

若鮎 二位 青葉 七位



にぎやかに

特集

生涯学習フェスティバル

四日間で十種目の行事

このフェスティバルは、大勢の人が学習したり、又学習に参加してもらうために、実際に学習をしている人から活動内容やその成果を発表していただき、実際の学習に接することによって生涯学習の理解を深め、学習意欲を高めています。

いたかくことを目的としたものです。このような形で、生涯学習をテーマにしたフェスティバルは県内は川口町だけで、全国的にもめずらしいとされています。

●とーくinかわぐち

生涯学習推進大会



▲同大会は今回で二回目。挨拶する青柳町長 11月4日、サン・ローラ川口で。

フェスティバルの中心となった「とーくかわぐち」は、生涯学習推進大会につけられた名前前で、推進大会は三月に続いた二回目の開催。会場のサンローラ川口には、関係者のほか一般参加者も多くみられ、「新しい生き方を考えよう」をテーマにして、生涯学習推進本部長の青柳町長は、一人でも多くの町民が生涯学習に参加して新しい生き方を考え、生き生きとした町づく

りをしましよと呼びかけ、実践発表や講演などで生涯学習の推進を誓いあいました。実践発表では、次の方が学習内容を発表し、町民への学習参加を呼びかけてくれました。

●華やかに菊花展

町長賞に渡辺正義さん

秋の風物詩、恒例の菊花展は、生涯学習フェスティバルの行事として今年是一段と華やかに開催され、訪れた人を楽しませてくれました。入賞者は次のとおり。

・町長賞 渡辺正義さん(川岸)

・町議会議長賞 江島正直さん(貝ノ沢)

・農協組合長賞 小西源一さん(荒屋)

・町教育長賞 江島キヨさん(牛ヶ島)

・菊花会長賞 小林 茂さん(川口三)



▲町長賞に輝いた、渡辺さんの作品。

●町民俳句大会

上村龍夫さんの作品が「天」に

「天」に

十一月二日、町民俳句大会募集句の入賞発表が、文化会館で行われた。約五百句の応募の中から、一六六句が入選。上位一八句の作者が入賞。上村龍夫さん(五十九歳・下村)の作品が最高の「天」に選ばれた。また次の「地」には喜多村暁さん(五十八歳・下村)、「人」には八十六歳の岡村トクさん(岩出原)の作品が、それぞれ選ばれた。



▲選者から入選句の選評を聞く……。



▲「句会」に取り組む皆さん。

募集入選句

大内迪子先生選

天	故郷の銀河頭上へのしかかる	上村龍夫
地	声かけず闇に消えたる夜水番	喜多村 暁
人	千萬のこでまりの花しだれけり	岡村トク (八十六歳)
五客	夜もすがら秋のすだれを雨たたたく	喜多村キヨ
	炎天に雪室の原酒堀り出だす	星野玲川
	蜩や川のむこうを通り雨	上村龍夫
	黄昏の池に手洗ふ花菖蒲	覚張秋晴
	朝露に福宜尻からげ草むしる	丸山一兎
佳作	孫に讀む我がすぎし日の終戦記	小宮山ミチ
	晩学の心はずませ盆句会	関 紫苑
	新薬のぬくもり抱へ立ちにけり	星野シユ
	蜘蛛が囀を繕ひをりし軒昏るる	上村たつお
	百姓に楽な時あり青田風	喜多村イマ
	ジョギングは孫と二人で出穂の道	喜多村イキ
	祖母逝きしあの夜も青葉木菟鳴きし	上村龍夫
	神霊の沁み入る心地岩清水	内山松月

選評

天 故郷の銀河頭上へのしかかる 上村 龍夫
地上の灯が明るくなって、都会などでは、星はまばらに弱々しい光を放っているが、故郷へ帰ると、その星の美しさに今更感動する。この一句もそんな故郷賛歌であって、大変好ましく感じた。

地 声かけず闇に消えたる夜水番 喜多村 暁
水盗むという季語があり、又盗まれないよう夜通しその番をするということ聞いた。又、水喧嘩ということさえ起るといふ。たまたまびくびくしながら水を盗みに出かけると、夜水番が見えぬ振りをして闇に消えたという。寡黙のうちの人情を無駄な言葉がなく簡略、的確に描写してある。

評 水盗むという季語があり、又盗まれないよう夜通しその番をするということ聞いた。又、水喧嘩ということさえ起るといふ。たまたまびくびくしながら水を盗みに出かけると、夜水番が見えぬ振りをして闇に消えたという。寡黙のうちの人情を無駄な言葉がなく簡略、的確に描写してある。



▲「彫刻展」



▲「書道展」



▲「手芸展」



木沢焼展

木沢焼も 見事なできばえ

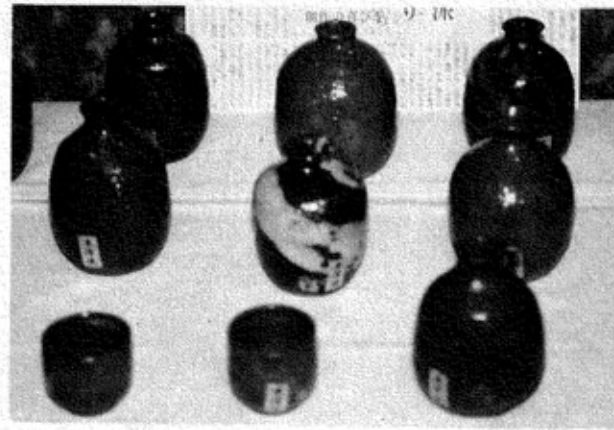
できたぞ! ぼくらの陶芸窯



まき使う本格派
地域挙げ手作り

川口町の木沢小

児童16人に
創作の喜びを



▲ぐい飲みとトックリ。



▲花びんや皿、カップ、つぼなど多くの作品を出展

●各種作品展を カメラでキャッチ!!



夜水番終る一番汽車が過ぐ 星野洋子
 青田波よせては返すおのづから 丸山池治
 入選 (一)

たぐりたる蔓に西瓜の数数ふ 星野七朗
 豊作の感触しかと手の稲穂 全
 てんと虫死んだ振りしてから逃げる 星野一夢
 来年も又減反か稲の花 全
 富士に似し入道雲の崩れけり 平沢静雲
 とつぷりと暮れて稲田も眠りたる 全
 照らしるる月に云ひわけ水盗む 喜多村 暁
 出穂盛り鳥追銃の音高く 岡村 トク
 吾よりも先に木の芽を摘みをりし 小宮山 トキ
 訪ね来し吾子と並びて晝寐かな 全
 盆の僧ハンドルを持つ袖まくり 関 紫苑
 早魃の土にしみこむ雨の音 星野 シュ
 暑き夜のせがれ帰るの知らせあり 星野 洋子
 亡き友に貰ひしぼたん花ひらく 大野 若菜
 風鈴の鳴らねば淋し老の部屋 全
 夏座布団出しあてもなく人を待つ 山田 マス
 汐の香のただよふ街や夜の秋 関 せいじ
 そよ風が出穂の田面を渡りけり 全
 いなづまに時々消ゆる天の川 丸山 一兔
 紫陽花やだきしめたいよな日の光 野沢 深水
 湯上りの一時団扇使ひひかな 小西 シゲノ
 鮎釣りの舟元氣よく漕ぎ出しぬ 丸山 静流

日焼けして元氣に西瓜売ってをり 丸山 静流
 紀の川の段々畠みかん咲く 内藤 一峰
 梅雨晴れの波静かなる日本海 全
 病良し夕焼雲の美しき 星野 紗都女
 しばらくは見ぬ間の青田穂に出でて 全
 帰郷して大根蒔きしてをりにけり 星野 玲川
 日盛りや園児迎へに笠被り 喜多村 イキ
 かぶと虫一日愛でて放しけり 喜多村 イマ
 足音の絶へし祭りの夜の暑き 喜多村 良子
 嫁きし娘の残せし朝顔今朝も咲く 覚 張 吉子
 紫陽花を手折りて姑の命日に 全
 夜店閉じ空には元の星座かな 覚 張 次郎
 岩壁に枝垂れ野萩の盛りかな 覚 張 秋晴
 刈り終へて田の面さびしく見えにけり 広 マスイ
 我生きて伴せにをり蟬しぐれ 小宮山 ミチ
 梅雨明けてどつとどくだみ匂ひけり 喜多村 キヨ
 かみ合わぬ話のとぎれ雲の峯 三輪 京子
 喜雨うけし杉の梢の光りをり 全
 朝霧の籠めし農道すずめ二羽 宮 ミヨ
 澄む風の肌にあやさしき天の川 丸山 トシ
 一瞬の花火に酔うて我忘れ 小西 蓉子
 よき事のありて紅萩真つ盛り 星野 きの
 のうぜんをまとふ一樹の葉の見えず 上村 龍夫
 渡舟呼ぶ声芒野に吸はれけり 上村 たつお
 妻の病む異郷望めば夏の月 内山 松月
 愛しみて畝間の青菜間引きけり 丸山 池治

人
 千萬のこでまりの花
 しだけけり 岡村 トク

評
 作者の年令八十六歳と聞き
 このような素直な句を作れる
 人の来し方を思った。何の欲
 もなく、大自然をそのまま受
 けとめ、十七字に表現し得た
 句で、俳句を作る根本の心の
 持ち方を教えられたおもしろい
 する。

× × ×
 × × ×
 × × ×
 多くの方々の厚い人情にも触
 れて、心豊かになるおもしろい
 二日間を過ごすことが出来まし
 たこと、ここから感謝いた
 します。
 山々の、又川堤の紅葉をぬら
 しては過ぐる雨は、こちらで
 は見ることの出来ぬ美しさで
 した。多くの方々の厚い人情
 にも触れて、心豊かなるおも
 いの二日間を過ごすことが出来
 ました。
 (先生のお手紙より)

入選(二)の九十九句は後日別途
 発表させて貰います。(山)



▲「民謡」



▲会場は観客でいっぱい。



▲「吹奏楽」



▲「壁塗り歌」



▲「廣大寺」



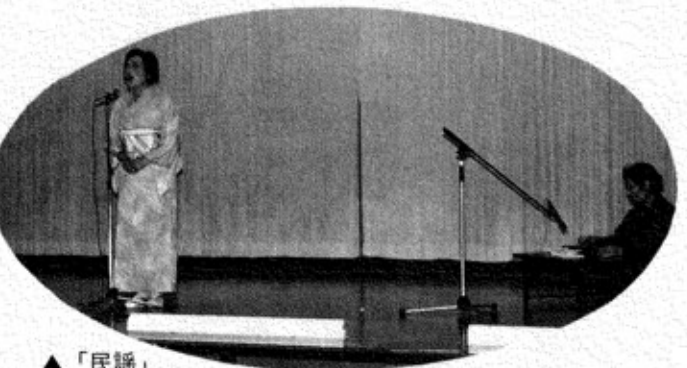
▲「花笠甚句」



▲「小高棒踊り」



▲「川口あおり太鼓」



▲「民謡」



▲「剣舞」

生涯学習フェスティバルと大きく掲げられた、ステージをいっぱい、各グループ、サークルの会が、日頃の学習の成果を発表。踊りや歌をはじめ、三味線、尺八、琴などによる熱演・熱唱が繰り広げられ、会場は酔い観客から大きな拍手と声援が飛んでいた。特に子供たちによる棒踊りや天神ばやし、童べ歌などの郷土芸能にひととき大きな拍手が起り、会場は一段と盛り上がった。今回は二十四のプログラムが生まれ、二百九十八名の方々が出演し観客を楽しませてくれました。



▲「童歌」



▲「民謡」



▲「大正琴」



▲「舞踊」



▲「コーラス かわぐち」



▲「舞踊」



▲「民謡」



▲「子供棒踊り」



▲「子供天神ばやし」

● 熱演、熱唱に酔う

会場から大きな拍手
— 町民芸能まつり —

順不同
なお紙面の都合上
全部掲載できません
割愛させていただきます。

町母子寡婦福祉会が団体表彰

町の母子寡婦福祉会（会長・内藤フミ）が新潟県社会福祉協議会から表彰されました。同福祉会は、結成以来三十二年余の長きにわたって、活発な活動を進めながら、会員の社会的福祉増進を図ってきており、今回その功績が認められ表彰されたものです。表彰式は十月二十日、新潟市で開かれた県民福祉大会で行われ、表彰状と記念品が贈呈されました。



中学校で「立志式」

我が子の成長を祝い 将来に向かってたくましく 生きてと願う!!

十四歳は 大人になる節目

川口中学校では、二年生を対象に「立志式」を行っています。立志式は、生まれてから十



▲「立志式」親子で祝う。

四年間を無事に過ごし、大きく成長したことを親子でお祝いするとともに、将来の目標にどのように対応していくかを考えさせ、人間としての在り方や生き方に対する心構えを持たせることを狙いに昨年

から開かれていたもので、また、昔「元服」という大人になる儀式がありました。現在でも、十四歳は大人になる節目に当たります。（少年法でも十四歳未満は特に慎重な扱いをされ、手厚く保護されています。）

激励に励んで 立志の決意を表明

式は、同学年の保護者が立会い、先生方や関係者が見守る中で行われ、学校長から立志式の意義や「社会の一員として立派に成長し、自分の道を自分の力で切り開いてほしい」と、激励やお祝いの言葉がよせられた。そして、代表して三人の保護者から、生徒たちに「私が選んだ道」、「郷土を愛し、汗を流してくれる人間に」、「社会人としての責任の在り方」などについて語りかけ、激励した。



▲手型を押して……。

生徒からはクラスを代表して、六人が「立志」の決意を表明。決意を述べる度に、保護者から大きな拍手が起こり、我が子の成長を祝った。

自分の手型を押し 努力を誓う 我が子の姿に涙……

最後に、十四歳を記念して「手型押し」が行われ、一人ひとりが会場の中央に進み、自分が努力することを印した色紙に手型を押し残しました。立派に成長した我が子を見ながら目頭を押さえる保護者の姿が多くみられました。

記念文集も……

また、「十四歳の私、親から子へ」の記念文集も発行され、子供に伝えたいこと、こんな人間になってほしいことなど親の立場でかかれ、十四歳の私の希望や夢が載せられています。

この複雑な社会に巣立ち、一人ひとりの生徒が健康で正しく、たくましく生きていくってほしいと願わずにいられない、そんな「立志式」でした。

県内の交通死亡事故激増

「非常事態」宣言!!

県内の交通事故による死者は、十一月十九日現在で二百五十人に達し、昨年同期と比べて三十六人多く、激増して

います。これにより、十一月二十七日、「交通死亡事故非常事態宣言」が県内に発令されました。

思いやりの運転で

交通事故による死者のうち子どもとお年寄りが全体の六十七%を占めており、交通弱者による死者が増大しています。ドライバーの皆さんに、お願いします。交通社会から



▲安全運転を呼びかける町安協婦人部の皆さん。

原因の一つに モラルの低下

また、全国における交通事故死亡者数は、昨年に続き一万人を突破する勢いで進んでおり、第二次交通戦争かといわれています。いっこうに減らない交通事故、その一つの原因に、交通ルール、マナーの欠如があげられています。モラルの低下は、しいては死亡事故などに結びつきます。そして、交通安全の主役はあなたです。そこで、もう一度交通安全について、家族ぐるみで話しあって下さい。また、職場で地域で交通安全の輪を広げていくことが大切です。

知っていますか？

安全運転五則

ドライバーの皆さん知っていますか？安全運転五則。これをしっかりと守って、悲惨な事故を起こさないよう一人ひとりが気をつけましょう。

安全運転五則をしっかりと守って!

1. 安全速度を必ず守る
2. カーブの手前で速度を落とす
3. 交差点では必ず安全を確かめる
4. 一時停止で横断歩行者の安全を守る
5. 飲酒運転は絶対にしない

あなたが主役の交通安全

- 歩行者は
 1. 安全を確かめてから横断する。
 2. 急な飛び出しをしない。
 3. 夜の外出は、明るい服装か反射材を身につける。
- 自転車を利用される方は
 1. 交差点では、一時停止、安全確認を励行する
 2. 無灯火、傘さし、二人乗り等はしない。
 3. 信号は、必ず守る。

飲酒運転はやめて

これから年末・年始にかけて、外でお酒を飲む機会が増えることでしょう。自分の車で出かけると、帰りは、つい飲酒運転をしてしまう人もいます。

飲酒運転の危険は知っているのに、なぜハンドルを握ってしまうのでしょうか。アルコールが体に与える影響を見ながら考えてみましょう。

おちよこ一杯で 理性が失われる

お酒を飲んで、酔った人によく「トラになった」といいます。

この言葉は、ある意味で正しいのです。アルコールには脳を麻痺させる働きがあり、その中でもまっさきに麻痺する脳の部分が、人が人であるために最も大切なところ——理性をつかさどる部分なので



酒の席には 車ででかけない

そこで、まだアルコールが入っていない、理性があるときに、お酒を飲んだらどうやって帰るのかを決めておき、そのとおりにすることです。そして何より、酒の席には車で出かけることができません。

スポーツの町宣言



▲11月12日(日) 秋晴れのもと、さわやかな汗を流す。写真は「小学生の部」がスタート。(田麦山小グラウンド)

十一月十二日(日)、地区民の体力向上と走る仲間づくり、親睦を狙いに、田麦山スポーツ振興会主催による「田麦山親善駅伝大会」が開かれ、健脚を競いあった。

同大会は、毎年この時期に行われ、今回で九回目。おなじみの六花園チーム(堀之内町)をはじめ三島町や小千谷市など町外からも大勢の走る仲間が参加した。なかでも堀之内町の原小学校から前回より二チーム多い八チームが出場。大会を一層盛り上げるとともに地元小学校との熱い戦いが繰り広げられた。

レースは、八・五キロ(小学生・女子・壮年)と十六キロ(一般)五区間で行われ白熱したレースが展開された。

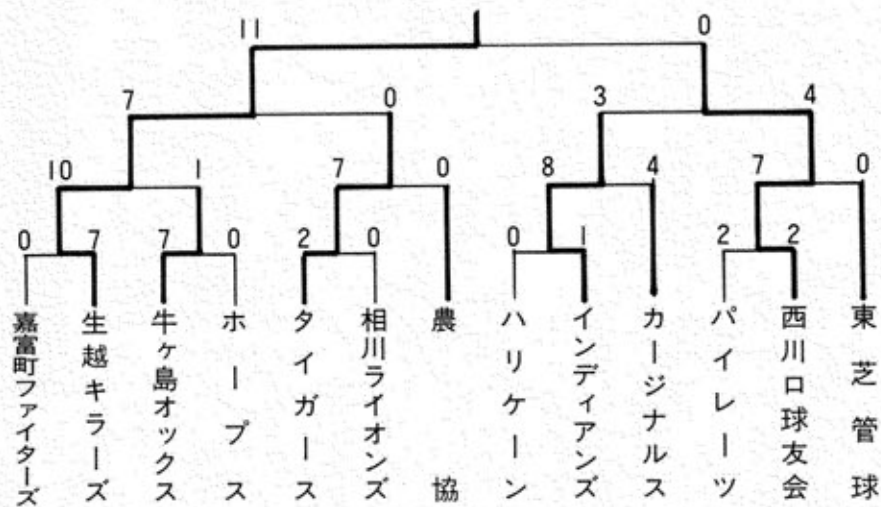
田麦山親善駅伝大会

町内外から四十二チーム 二百五十人が参加!

公民館長杯 野球大会

- 優勝 生越キラーズ
- 準優勝 西川口球友会
- 三位 インディアンズ・タイガース

生越キラーズ



町民野球三タイトルの内の一つ、公民館長杯大会で生越キラーズが優勝し、平成元年の町民野球シーズンも終幕となりました。

生越キラーズは、今年の手権大会と町長杯大会で共に準優勝した好チームです。

町民野球終幕

公民館長杯で 生越キラーズが優勝



「へそくり」の語原については、説がいくつかあります。「踏繰り」と書くのは、腹に巻いた銭入れの踏巻から、必要な時に繰り出して使うからとする説によるものですが、「へそ」は機械的に用いる麻糸のこと、つまり「繰麻」とする説のほうが有力です。

「繰(へそ)り」は経糸を伸ばし整えて織り機にかける意味の動詞「麻(そ)」は枕詞「夏麻引く」のように、古語では麻をさしました。

「へそくり」は主婦が内職に綜麻を繰って、少しづつためた金というわけです。

「へそくり」は八年株一年といふことわざは、「桃栗三年柿八年」をもじったもので、八年間もかけてためたへそくりを株に手を出したため、わずか一年ですってしまふこと。逆に、株で一年間にもうける金額は、八年分のへそくりに相当するという意味にも使われたようです。

いすれにしても、へそくりは大した額にならないようです。



▲11月5日 小千谷市民体育館を一斉にスタート

小千谷川口駅伝

一般の部で

田麦山Aチームが二位入賞

川口中は六位 (中学生の部)

好天に恵まれて新記録の多く出るレース展開の中で、一般の部の田麦山Aチームは十四チーム中二位に入賞、中学の部で川口中学チームは十八チーム中の六位となりました。この大会は川口の生涯学習



▲「二位でゴールイン」 田麦山Aチームアンカー 森山鉄也さん

フェスティバルの行事の一つで、魚沼地域では名の通った大きな大会となってきたおり、小千谷、十日町、南、北、中魚の二市三郡から参加がありました。

昨年からは親善大会でなく実力本位の大会に切替えて、競技力の向上をめざしているところと



▲奮闘した川口中のメンメン。

今年も盛大に 交通安全タスキリレー

西川口公民館

十一月五日(日)、西川口地区公民館主催による「交通安全祈願タスキリレー」が今年も盛大に行われました。

同リレーは、地区民の安全を願って、毎年この時期に行われているもので、今年で五回目。

この日、地区の人たち約百二十人が川西神社に集まって交通安全を祈願。皆さんでお



▲安全祈願タスキを受けて……。

払いをし、神主から祈願タスキを受けたあと、九チーム対抗によって、タスキが地区内をリレーされた。

レースは、同神社をスタート、地区内を一周するもので十一・五キロを十人でリレー。小学生も参加し、選手は交通安全をモットーに、沿道から盛んな声援を受けながら快走していた。



▲川西神社をスタート。

心のこもった料理でもてなし!!

一人暮らしのお年寄りたちと 楽しいひとときを過ごす

私達（町食生活改善推進委員協議会）は、今回はじめて社会福祉協議会主催の独居老人会の行事に参加させていただき、昼食作りを担当いたしました。



▲会食と踊りなどを一緒に楽しむ。10月31日 末広荘で

私達が作った料理を皆さんから食べてもらいたく、一同はりきって一生懸命作りまし

た。料理が出来上がったから私達も加わらせてもらい、ボランティアの人達による大正琴の演奏や踊りを見ながらの会食と、たのしいひとときを過ごさせていただきました。はじめての経験で不都合な面もあったかと思いますが、これを機会に一步一步前進していきたいと思えます。

同協議会の会員は、現在東部地区に三名、西川口四名、上川四名、田麦山四名、木沢二名、中山・和南津三名の計二〇名。少人数ですが、各地域での伝達講習会、健康増進者栄養教室、検診の事後指導の手伝いと、それぞれにチームワークの良さと頑張っています。

「独居老人会に参加して」
会長 丸山フミさんから寄稿いただきました。

暮らしのポイント

正月の料理

おもちにかびを 寄せつけない

お正月に欠かせないのが、おせち料理とおもち。おせち料理は、普通、塗り重箱に詰めます。重箱は上段から「一の重」「二の重」「三の重」と呼ばれます。「一の重」には、新年を祝ってお屠蘇を飲みながら食べる「祝い肴」の数の子や黒豆、田作りなどのほか、お雑煮と一緒に食べる「口取り」のきんとん、かまぼこなどを詰めます。

「二の重」「三の重」には、くわい、やつがしらなどの煮物、鯛や鱈などの焼き物、なますなどの酢の物を中心に詰めます。おせち料理は日持ちがよく、日本人の食生活の知恵と美意識が結びついた料理です。おもちはお正月につきものですが、関西では一個一個を丸めた丸もちが普通です。関東は、一枚ののしもちを四角に切るのが習慣のようです。最近では家庭の暖房事情がよ

く、おもちがカビやすいですが、おもちの表面をよくふき取った後、酒か焼酎でふいておくと、カビ防止に役立ちます。カラシにも、カビを抑える働きがあります。小皿かおちよこに、大きじ二杯分くらいの練カラシを入れ、和紙でフタをして、もちの箱に入れておくのもカビ防止の工夫の一つ。

のしもちを切るときは、ぬれた布きんで包丁をふきながら切ると、もちが包丁にくっつかず、スムーズに切れます。また、大根をそばに置いて、その都度包丁で切れ目を入れながらもちを切ると、同様につかずに切れます。鏡もちは、重なり合ったところにカビがはえやすいものです。これを防ぐには、供えるときに、米粒を五つ、六つ、もちの間に敷いておくと、通気性がよくなって効果的です。

生命保険料等の 払込証明書の 保管について

生命保険、損害保険（火災保険）に加入し、保険料を支払った場合は、支払保険料に應じて一定額が住民税及び所得税の申告の際に所得金額から控除されます。

保険会社及び農協等から発行された各種払込証明書は大切に保管しておき、一月十六日から三月十五日までに行なわれる申告の際に持参して下さい。

詳細については役場財政課へお問い合わせ下さい。



国年通信

相談の窓

Q (相談)

私は先月五十六歳になり、特別支給の老齢厚生年金を受けています。

国民年金には、二〇歳以上六〇歳未満の人が加入するようですが、私も六〇歳になるまで国民年金に加入しなければならぬのでしょうか。

A (回答)

二〇歳以上六〇歳未満の人は、国民年金に加入することになっていますが、あなたのように、特別支給の老齢厚生年金を受けている人は、加入するしないは、ご本人の意志にまかせられています。

つまり、六〇歳未満の人でも、特別支給の老齢厚生年金（旧厚生年金の老齢年金も含む）を受けていれば「国民年金に必ず加入しなければならぬ」ということはありません。

ただし、国民年金に加入し



て保険料を納めておけば、加入した期間に応じて、六十五歳から、年金が増額されたり新たに年金が受けられるようになります。

あなたのように、特別支給の老齢厚生年金を受けている人は、老齢基礎年金が増額され、また、旧厚生年金の老齢年金を受けている人は、通算老齢年金が受けられるようになります。

国民年金へ加入する手続きは、役場の窓口で行ってください。

なお、六〇歳未満の人で、船員保険の老齢年金を受けている人や、共済年金の退職共済年金を受けている人も同様です。

サラリーマンの奥さん(第三号被保険者)

加入手続きはお済みですか!?

新しい国民年金では、サラリーマンの奥さん(第三号被保険者)は自ら国民年金の保険料を納める必要はありませんが、サラリーマンの奥さんとしての届出が必要です。

この届出によりサラリーマンの奥さんとしての記録を残し、将来年金をうけるときに支障をきたさないようにする

ためです。(届出を怠りますと年金を受けられなくなるおそれがあります。)

サラリーマンの奥さん(第三号被保険者)とは

国民年金の「サラリーマンの奥さん(第三号被保険者)」とは、ご主人が厚生年金や共済年金に加入していて、そのご主人の収入により主として

年金手帳は大切に

国民年金・厚生年金のいずれかに、初めて加入すると、二つの年金制度の記号番号が記入できる年金手帳(オレンジ色)が交付されます。

この年金手帳は、二つの年金制度で共通に使用するため国民年金から厚生年金に変わったときは、勤務する事業所へ、また、厚生年金から国民年金に変わったときは、役場の国民年金係へ年金手帳を提出してください。

年金手帳に記入された記号番号は、一生を通じて変わりがありません。

このように、年金手帳は、あなたの一生の年金加入状況を記録しておくものですから大切に保管しましょう。

**六十歳以上の人も
六十五歳まで
任意加入できます**

○六十歳になって年金の受給資格期間に少し足りない方。



○保険料未納期間やカラ期間のある方。
任意加入で満額の年金に近づけることができます。
詳しいことは、年金係(役場福祉課)にお尋ね下さい。